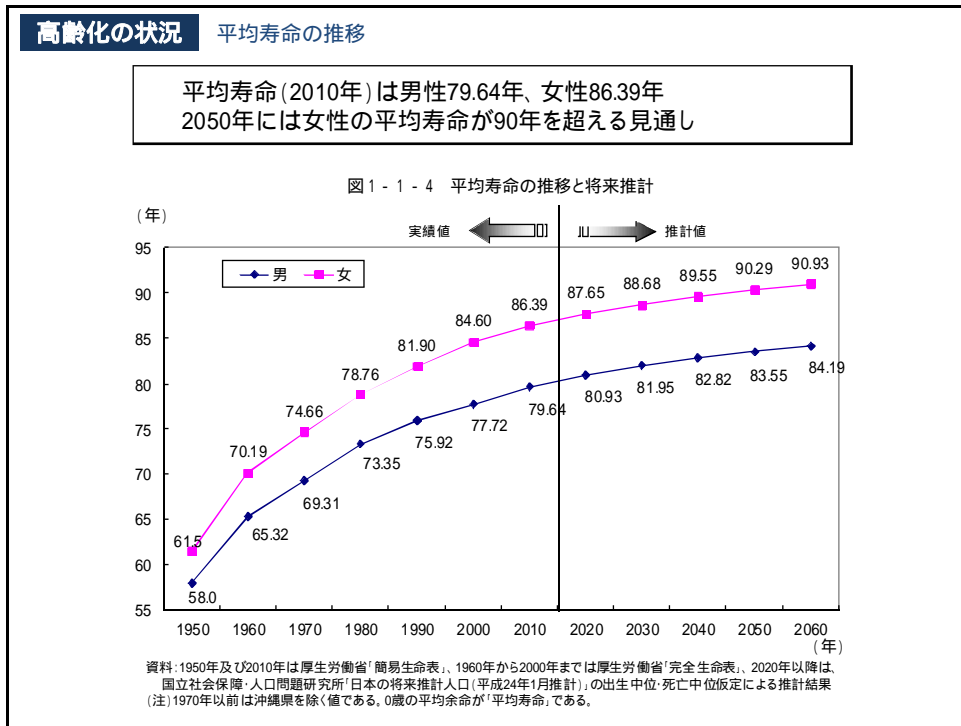


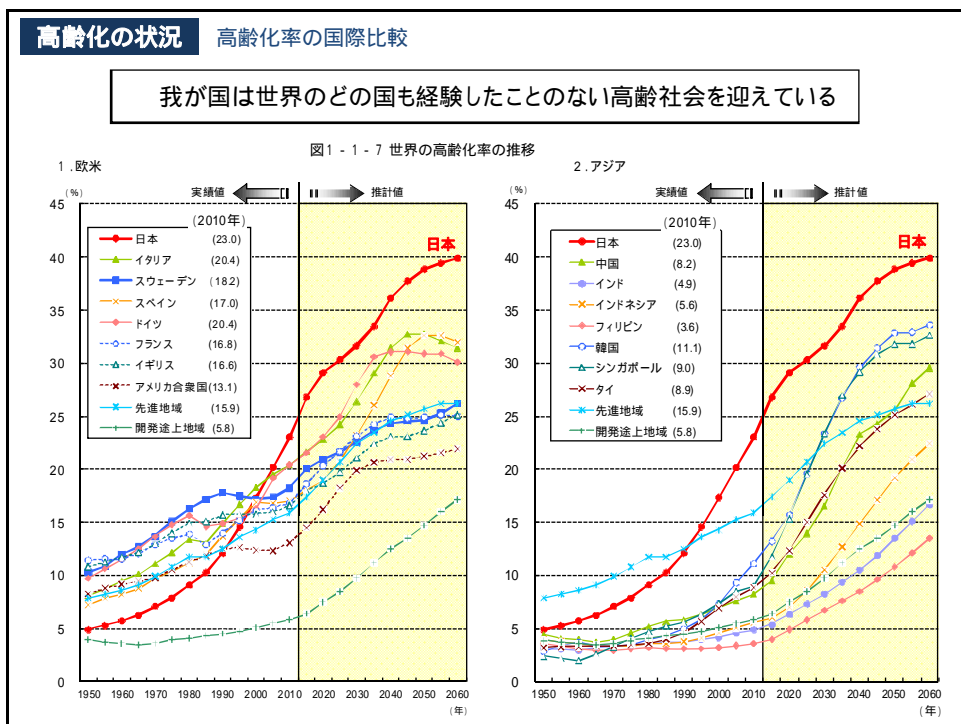
< 平均寿命の推移 >



続いて、平均寿命の推移です。平均寿命は2010年現在で男性が79.64年、女性が86.39年となっていますが、今後も平均寿命は延伸すると見込まれています。2060年には男性が84.19年、女性が90.93年となり、女性の平均寿命が90年を超えることが見込まれています。

また、65歳時の平均余命ですが、1955年には男性が11.82年、女性が14.13年でした。2010年には男性が18.86年、女性が23.89年となっており、男性、女性とも高齢期が長くなっている状況にあります。

< 高齢化率の国際比較 >



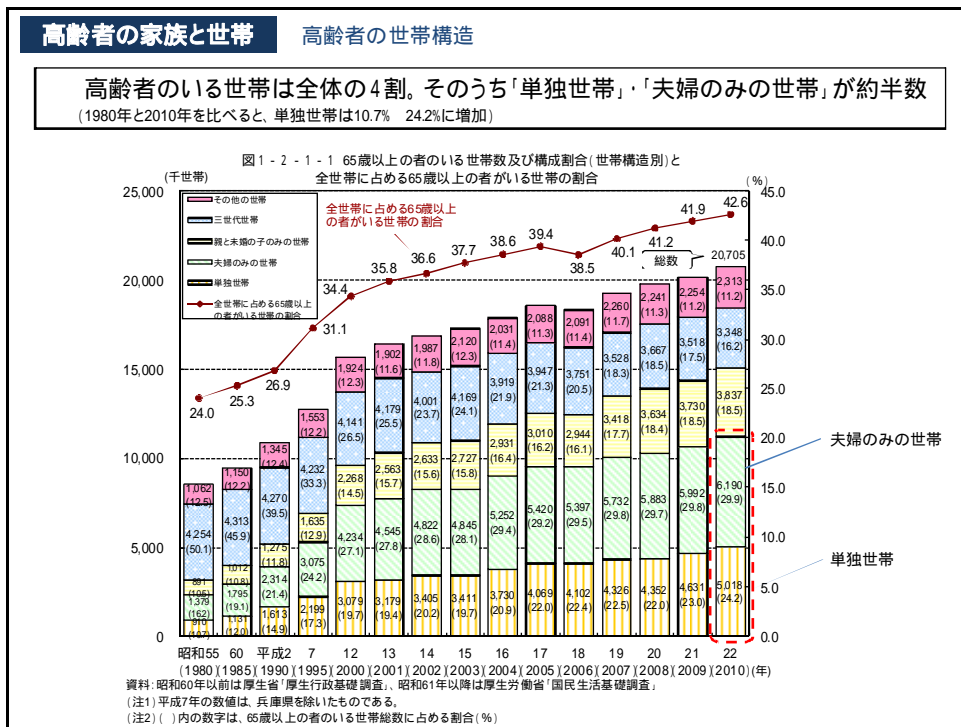
続いて、先進国の高齢化率を比較してみると、我が国は1980年代までは下位、90年代にはほぼ中位でしたが、2005年には最も高い水準となり、世界のどの国もこれまで経験したことのない高齢社会を迎えています。

また、高齢化の速度ですが、7%を超えてからその倍の14%に達するまでの所要年数は、フランスが115年、スウェーデンが85年、比較的短いドイツが40年、イギリスが47年であるのに対して、我が国は1970年に7%を超え、その24年後の1994年に14%に達しています。世界に例をみないスピードで高齢化が進んでいます。

アジア諸国でみると、今後、急速に高齢化が進み、特に韓国においては我が国を上回るスピードで高齢化が進行し、2005年に9.3%であったものが2060年には33.6%に達すると見込まれています。地域別に高齢化率の今後の推移をみると、これまで高齢化が進行してきた先進地域はもとより、発展途上国地域においても高齢化が急速に進展すると見込まれています。

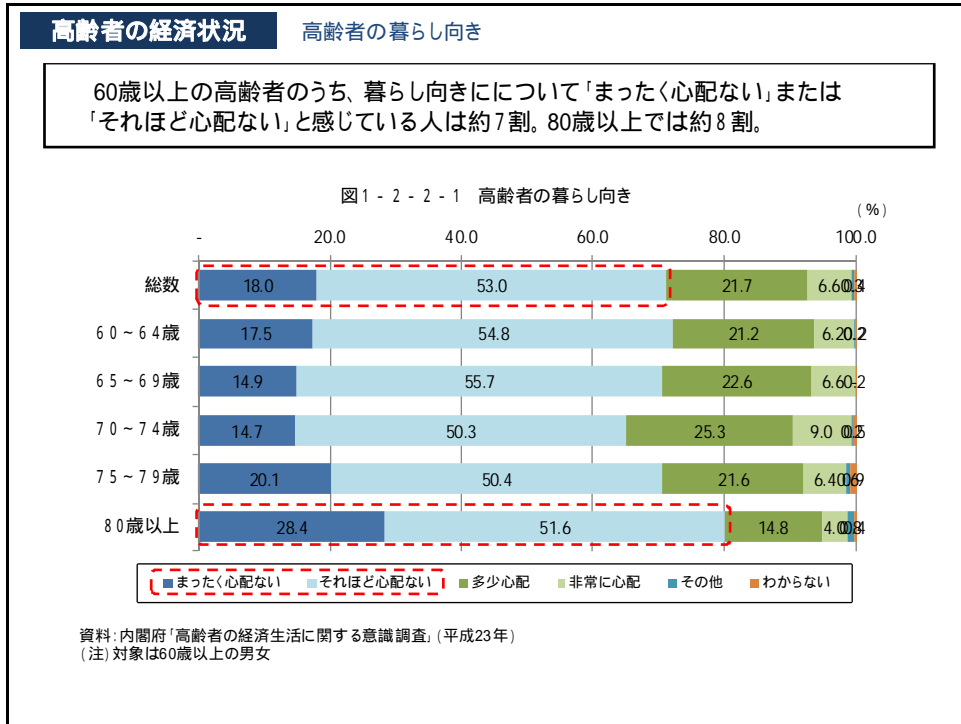
第2節 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向

< 高齢者の世帯構造 >



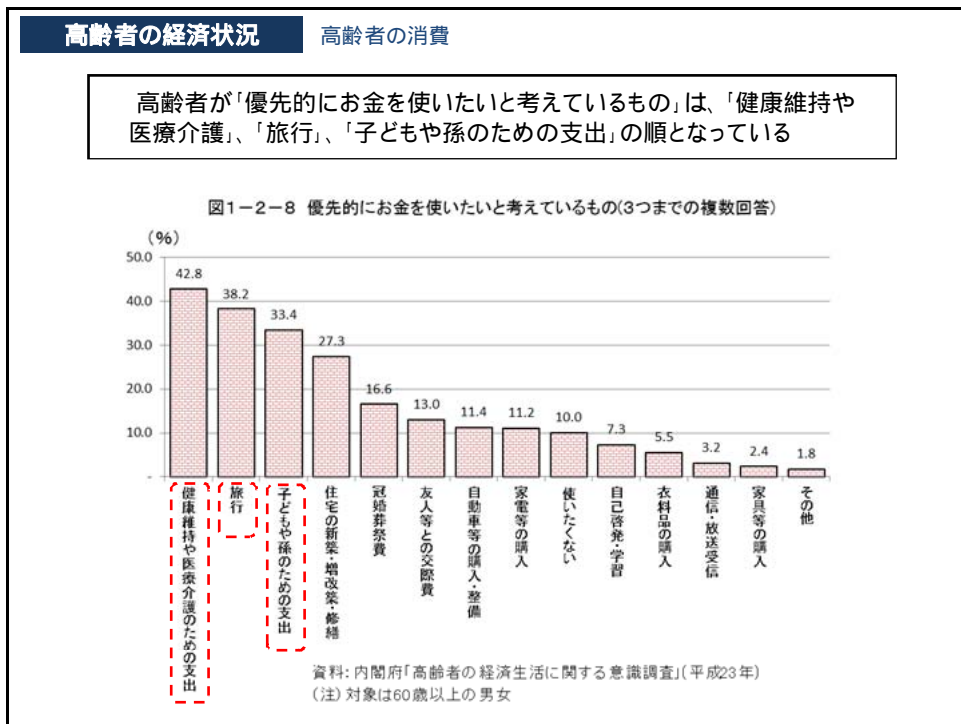
65歳以上の高齢者のいる世帯についてみると、2010年現在、世帯数は2,071万世帯と前年に引き続き2,000万世帯を超えています。全世帯の42.6%を占め、高齢者のいる世帯は増え続けている状況にあります。

< 高齢者の暮らし向き >



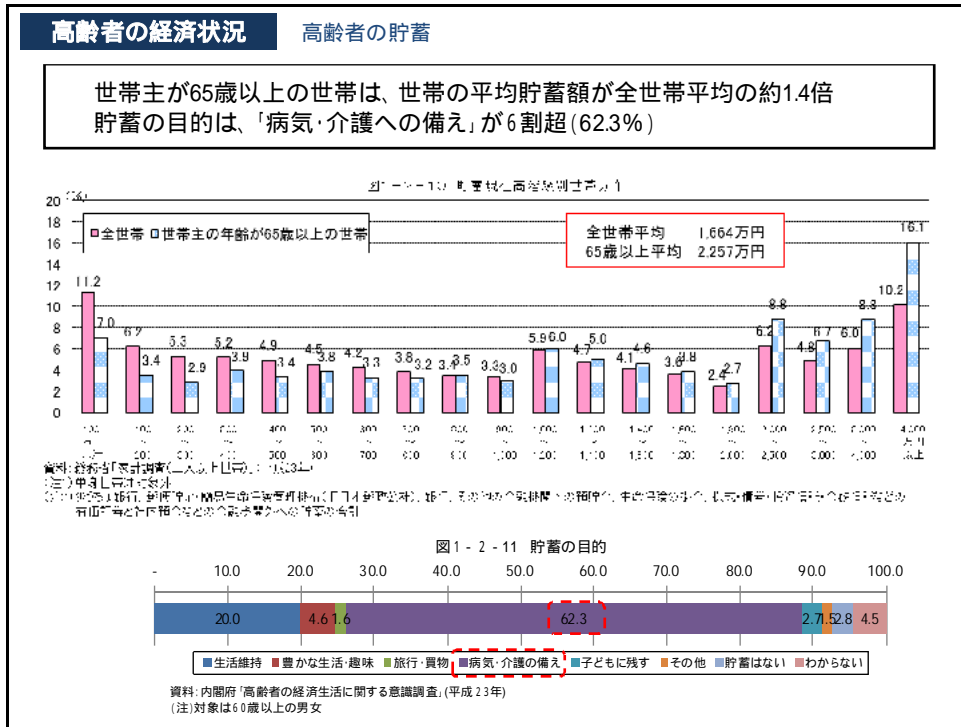
続いて、高齢者の経済状況です。60歳以上の高齢者の暮らし向きについて調査したところ、「心配ない」（「まったく心配ない」と「それほど心配ない」の合計数）と感じている人は全体の71.5%であり、年齢階級別にみると80歳以上は約8割と高い水準になっています。

< 高齢者の消費 >



続いて、高齢者の消費について、どのようなものに優先的に使いたいかという問いです。60歳以上の高齢者の支出に関する意識については、まず1番が42.8%を占めている「健康維持や医療介護のための支出」、2番目が「旅行」で38.2%、3番目が33.4%で「子どもや孫のための支出」となっています。

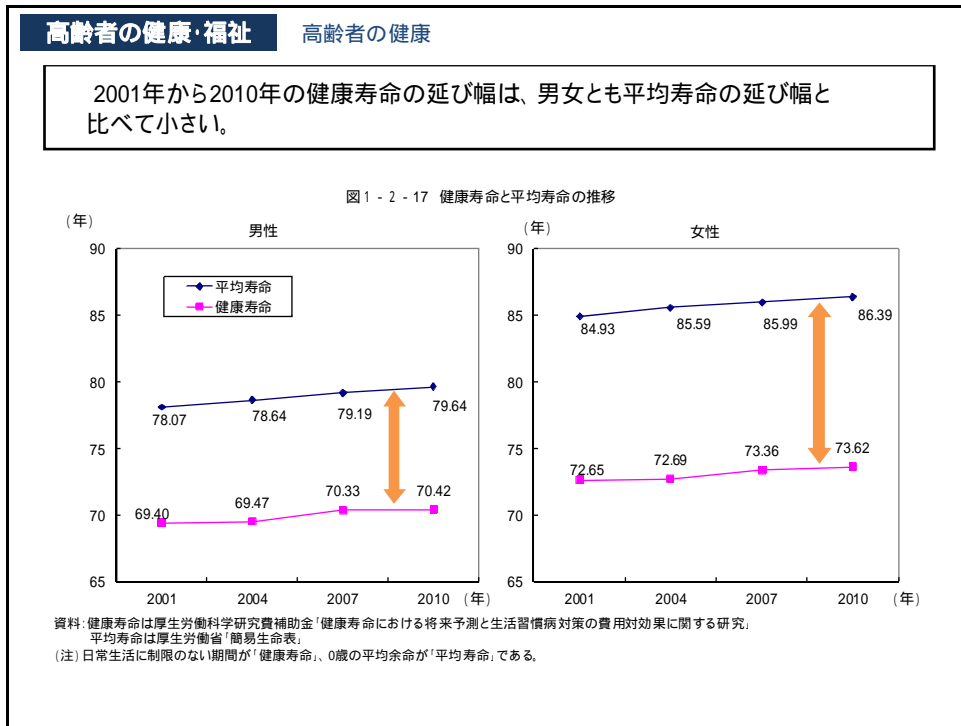
< 高齢者の貯蓄 >



高齢者の貯蓄がどのようになっているかという現在の貯蓄高については、世帯主の年齢が65歳以上の世帯と全世帯の平均を比較すると、65歳以上の世帯が2,257万円、全世帯平均が1,664万円、高齢者が約1.4倍の貯蓄をしている状況にあります。また、貯蓄の現在高階級別の世帯分布をみると、世帯主の年齢が65歳以上の世帯では4,000万円以上の貯蓄を有する世帯が16.1%あり、全世帯の10.2%と比べて高い水準となっています。

貯蓄の理由は「病気・介護の備え」が62.3%で最も高く、次いで「生活維持」となっています。

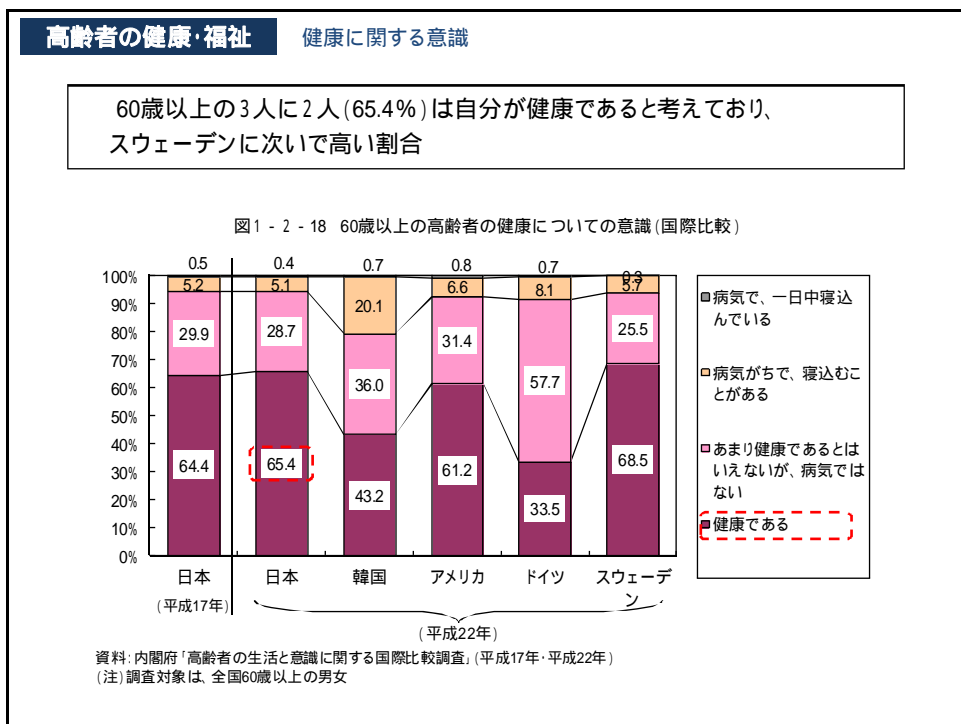
< 高齢者の健康 >



高齢者の健康の状況についてです。健康寿命と平均寿命の推移ですが、日常生活に制限のない健康寿命は、2010年時点で男性が70.42年、女性が73.62年となっており、2001年と比べて延びています。

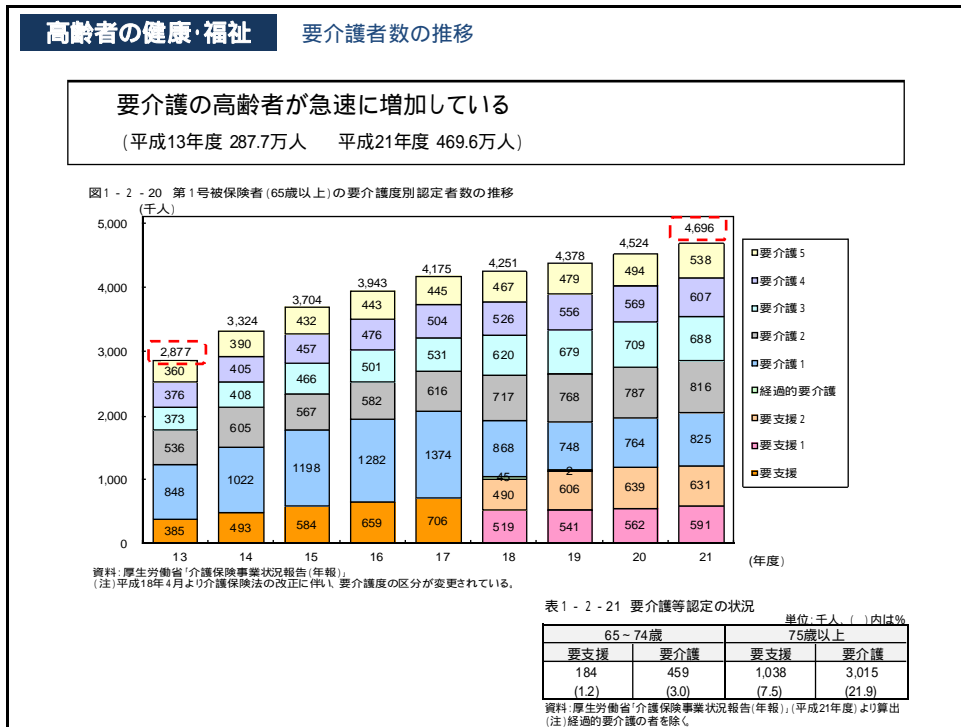
しかし、2001年から2010年までの健康寿命の伸びは同期間における平均寿命の伸びと比べて小さくなっており、2010年における平均寿命と健康寿命の差は男女とも2001年と比べて広がっていることがわかります。

< 健康に関する意識 >



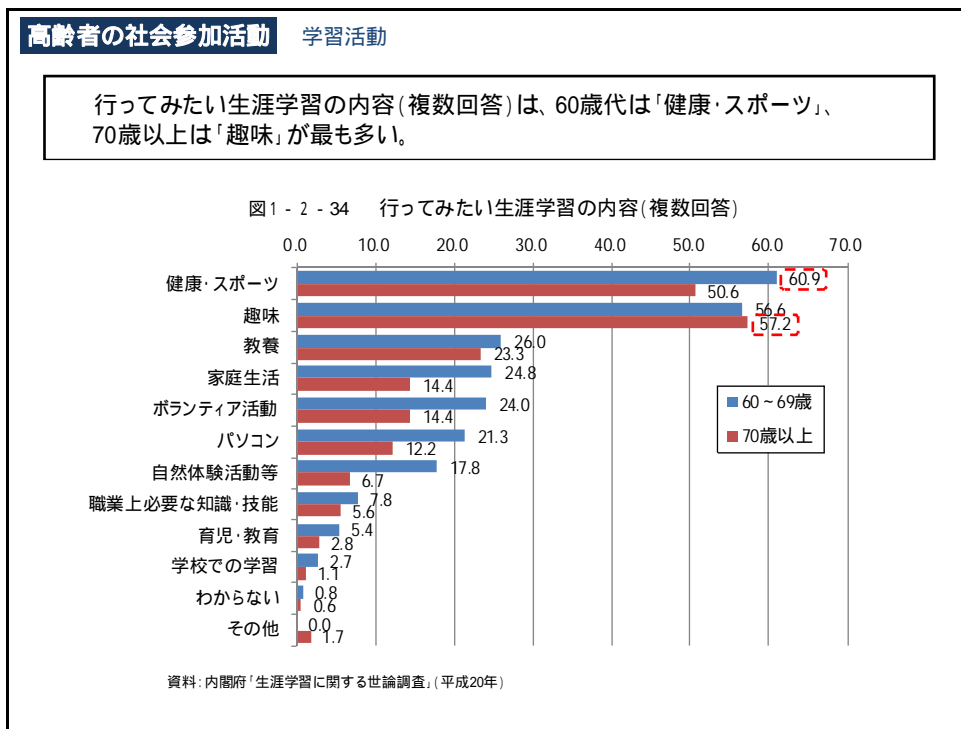
続いて、健康に関する国際比較です。健康についての高齢者の意識を韓国、アメリカ、ドイツ、スウェーデンの4カ国と比較してみると、60歳以上で「健康である」と考えている人の割合は、スウェーデンの68.5%に次いで日本が65.4%と高い結果になっています。以下、アメリカが61.2%、韓国が43.2%、ドイツが33.5%という順番になっています。

< 要介護者の推移 >



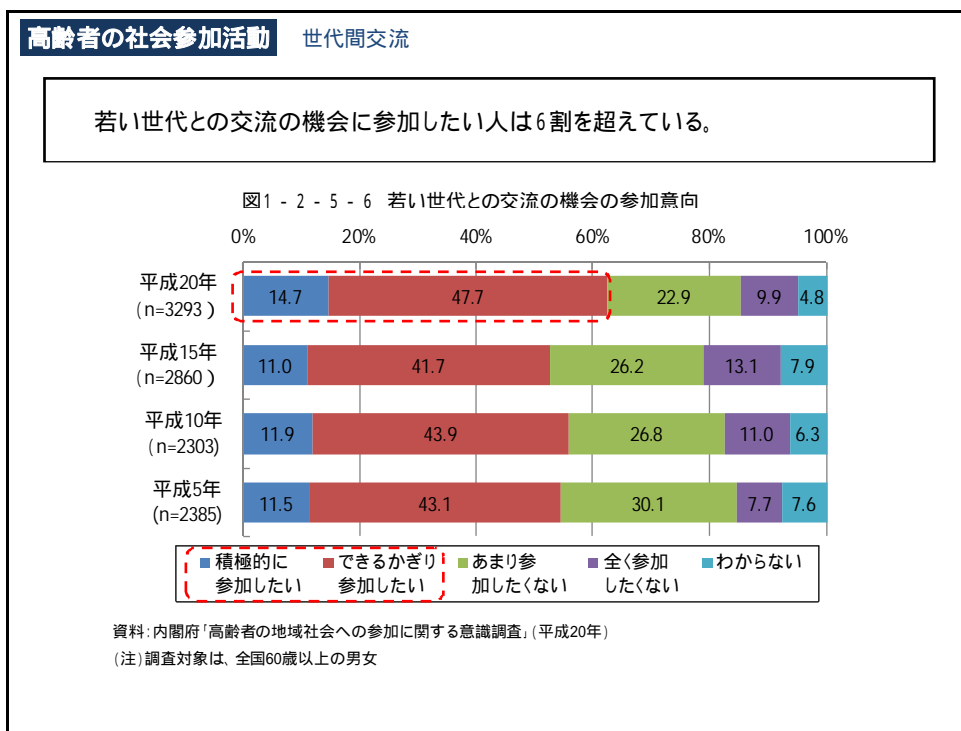
介護保険制度における要介護者または要支援者として認定された人は2009年度末で484.6万人となっており、2001年度末から196.9万人増加している状況にあります。そのうち65歳以上の人の数についてみると、2009年度末で469.6万人となっており、2001年度末から181.9万人増加し、第1号被保険者の16.2%を占めている状況にあります。

< 学習活動 >



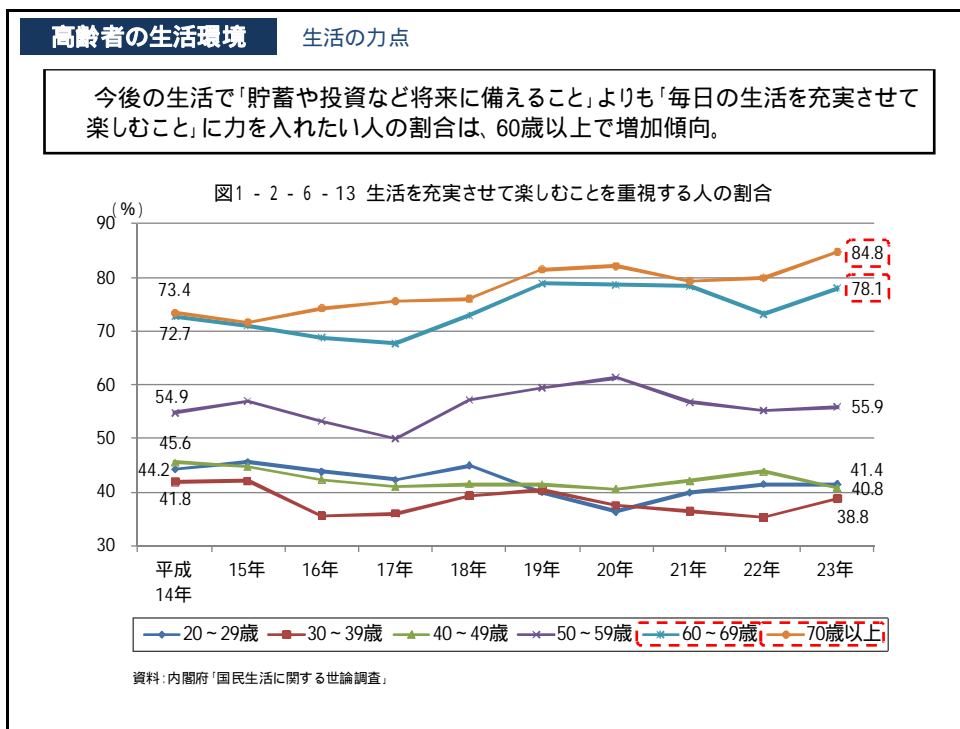
続いて、高齢者の社会参画の中で学習活動の状況です。行ってみたい生涯学習の内容ですが、60～69歳は「健康・スポーツ」、具体的には、健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳などで60.9%と最も多くなっています。70歳以上では、音楽、美術、華道、舞踊、書道などの「趣味」が57.2%で最も高くなっている状況です。

< 世代間交流 >



次の資料はお手元の資料にありませんが、ご参考までにお知らせします。高齢者の社会参画で、世代間交流に「参加したい」人は6割を占めています。「積極的に参加したい」「できるかぎり参加したい」と回答した高齢者が62.4%です。これは5年に一度、同じ統計を取っているのですが、1993年の調査以来、はじめて6割を超えている状況です。

<生活の力点>



次もお手元の資料にありませんが、高齢者の生活環境です。内閣府の「国民生活に関する世論調査（2011年）のデータによると、今後の生活で「貯蓄や投資など将来に備えること」よりも「毎日の生活を充実させて楽しむこと」に力を入れたい人の割合が、60～69歳は78.1%、70歳以上は84.8%となっており、59歳以下の層で2002年以降、概ね横ばいまたは減少傾向であるのに対して、60歳以上の各層は増加傾向にあります。豊かな高齢者生活を送ろうとしていることがうかがい知れます。